

# 手指衛生を確実にする多角的な方策紹介

城西病院と院内感染対策委員会は3月7日、聖路加国際病院Q Iセンター感染管理室マネジャーの坂本史衣氏を「茶釜の湯」に招き、「手指衛生を推進するための多角的な取り組み」をテーマに、講演会を開きました。

坂本氏は、手指衛生には「手が汚れたなど自分のために実践するものと、患者との接触前や接触後の他者のためのものがある」と区分。医療などに携わる人々には、この知識や意識はあるが十分実践されないことがある要因などを示しました。その一例としてWHO（世界保健機関）の示す手指衛生を要する5つのタイミングを紹介。「5つのタイミングは知っているが、具体的にどの場面の前と後で行うのか分からないのが、実践を低くしている要因」と指摘し、患者への病原体伝播を防ぐ場面と、患者から医療従事者や医療エリアの伝播を防ぐ場面を具体的に紹介。手袋も数%に微細なピンホールが開いている可能性があり、手袋をはめる前、脱いだ時の手指衛生の大切さに言及しました。

手指衛生の実践を確実にするため、必要なものとして医療関係者全てがすぐに使えるような設置場所の改善、手指衛生を徹底する上での自然発生的に現れる“チャンピオン”（リーダー的に実施し、ほかの人たちに影響を与える人）の育成と組織の協力体制、モニタリングによるフィードバックなどを紹介し、解説しました。

「モニタリングでは、実施率の数字ではなく、その改善を行わないことが恥ずかしいこと。そして、職員のみでなく、患者にも協力していただき、ベッドのテーブルに『手指衛生をしましたか?』というステッカーを張っています」と実践例を紹介しました。最後に、麻疹や風疹、水痘、ムンプス、B型肝炎、インフルエンザなどのワクチンで予防可能な感染症を紹介し、講演を締めくくりました。

2019年3月8日



坂本史衣（さかもと・ふみえ）氏  
聖路加国際病院Q Iセンター感染管理室マネジャー

日本環境感染学会理事、同学会医療環境委員、厚生労働省抗微生物薬適正使用（AMS）等に関する作業部会などで活躍

Q I（Quality Indicator）  
医療にかかわる質を指標化し、医療の向上を図る取り組み

